Miyazaki International College

Course Syllabus

|  |  |
| --- | --- |
| Course Title ( Credits ) | EDU320：教育相談 Educational Counseling (2 credits) |
| Course Designation for TC | 【科目】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【施行規則に定める科目区分又は事項等】教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 |
| Content Teacher |
| Instructor | 安東　末廣（単独） |
| E-mail address | sando@edu.miyazaki-mic.ac.jp |
| Office/Ext | 1-204 |
| Office hours | オフィスのドアに記載されています。 |
| Language Teacher |
| Instructor |  |
| E-mail address |  |
| Office/Ext |  |
| Office hours |  |

|  |
| --- |
| Course Description: |
| 教師が行う教育相談は、教師の立場を保ちながら生徒の心の支えとなり、問題解決を向上させるものである。教育相談を行うには、先ずカウンセリングに対する基礎的な知識と技法の習得が求められる。また、教育相談には学校空間と学校組織という背景があるため、それらを長所とするための方法を習得する必要がある。これらの基本的な学習を行った後に、学校現場で生じている様々な問題行動に対して具体的な対応がなされている教育相談の実際について学習する。最後に、問題行動によっては学校でなされる教育相談のみでは対応が十分と言えないものもあり、外部の専門家との連携も欠かせない場合もあるため、専門機関との連携についても学習する必要がある。【全体目標】教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 |
| Course Objectives: |
| 【一般目標】(1)教育相談の意義と理論学校における教育相談の意義と理論を理解する。(2)教育相談の方法教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。(3)教育相談の展開教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。【到達目標】(1)教育相談の意義と理論1)学校における教育相談の意義と課題を理解している。2)教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。(2)教育相談の方法1) 幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。(3)教育相談の展開1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。 |
| Course Schedule |
| Day | Topic, Content/Activities |
| 123456789101112131415 | 教育相談とは何か・・・・・・・（目標(1)-1））カウンセリングの基礎理論・・・（目標(1)-2））問題行動の意味と把握方法・・・（目標(2)-1））カウンセリングマインドとは・・・（目標(2)-2））受容と共感の意義・・・（目標(2)-3））傾聴技法・・・（目標(2)-3））教育相談の実施者と対象者・・・（目標(3)-1））教育相談の目標の立て方とプロセス・・・（目標(3)-1））いじめの教育相談の実際・・・（目標(3)-2））登校しぶり・不登校の教育相談の実際・・・（目標(3)-2））登校しぶり・不登校の教育相談の実際・・・（目標(3)-2））虐待の教育相談の実際・・・（目標(3)-2））非行の教育相談の実際・・・（目標(3)-2））教育相談の計画の作成と体制づくり・・・（目標(3)-3））地域の専門機関との連携・・・（目標(3)-4）） |
|  | 期末試験 |  |
|  |
| Required Materials: |
| テキスト：特になし参考書等：『生徒指導提要』(平成22年、文科省) |
| Course Policies (Attendance, etc.) |
| 教職を目指す学生として教員の崇高な使命をよく理解するよう努めることが肝要である 。 授業は欠席や遅刻をすることなく 積極的に参加するように心がけること。 特に、 時間に凡帳面であることと、 日常生活の態度 （ あいさつ、 身なり 、 言葉遣い等） には気をつけること。 教員採用試験に向けて教職教養の勉強をしっかり して力をつけること。 |
| Class Preparation and Review |
| Students are expected to spend at least one hour reviewing and doing homework and one hour preparing for every hour of lesson time.事前・事後学習として週４時間以上行うこと。毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキスト箇所を伝えるので、入念に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。 |
| Grades and Grading Standards |
| レポート提出30％、期末試験70％ |
| Methods of Feedback: |
| レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。・コメントを記載して返却する。・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 |
| Diploma Policy Objectives: |
| Work completed in this course helps students achieve the following Diploma Policy objective(s):3. The ability to identify and solve problems 4. Advanced communicative proficiency in both Japanese and English |
| Notes: |
| 講義内容について、シラバスの到達目標に記載されているように自分の言葉で他者に説明できるように努めること。 |